



横浜市立大口台小学校 《令和元年度》

学校教育目標

わくわくトライ 大口台

自ら進んで学び続ける子

【知】 相手を思いやり、自分を大切にできる子

【徳】

心身ともに健康でたくましく生きる子

【体】 人やまちとのつながりを大切に、ともにみらいをつくる子【公】【開】

○ 全教職員が学校経営に主体的に参加し、活力と魅力あふれる学校づくりを推進します。

- ・対話的、主体的で深い学びが実現できる教育活動を充実させ、子どもの学ぶ力、生きる力の向上を図る。
- ・望ましい人間関係のもと、人とのコミュニケーションを大切に、他者を尊重する態度と、自己肯定感や自己有用感を育てる。
- ・継続的、計画的に体力向上の取組、健康教育の実践を図る。
- ・家庭・地域・関係機関との連携を図り、社会に開かれた学校づくり・安全安心の学校づくりを進める。

学校経営 中期取組目標

令和元年度～3年度 大口台小学校
中期学校経営方針

小中一貫教育の取組

【9年間で育てる子ども像】たくましく社会を生き抜いていく子ども

《課題解決力》

《自尊感情》

《コミュニケーション力》

- ・ 目指す資質・能力を基盤に、学習への積極的な参加、適切な言語表現、確実な知識・技能の定着を図る。
- ・ 礼儀や規範意識を身につけ、自他へ思いやり、やさしさを行動に表せるようにする。
- ・ 地域に暮らす者として、自覚と責任のある行動と感謝の気持ちをもてるようにする。

神奈川中学校ブロック

神奈川中学校

大口台小学校 白幡小学校

校内重点研究

自己肯定感をもてる子どもの育成《算数科を中心に》

学力向上アクションプラン

体育・健康プラン

「豊かな心の育成」推進プラン

重点取組

生きてはたらく知

豊かな心

健やかな体

自分づくり教育

- 問題を自立的、協働的に解決する学習方法の工夫。
- 友達の考え方や意見を取り入れるトレーニング
- 学習のトレーニングの積み重ねを行い、基礎学力の向上を図り、新しい知識や学力をつけるための土台づくりを行う。

- 道徳の授業公開を全学級で行う。
- わくわくトライ活動では、ペア学年による活動を取り入れ、各学年でのめあてを明確にし、充実させていく。
- 地域や商店街、盲特別支援学校などの交流を通して、様々な人の立場の思いに触れ、自分たちができていることをしていこうとする心を育てる。

- 体力テストをもとに週1回体力向上の時間を運営し、体力向上や運動を習慣づける。
- 体育協会と連携し、月1回リズムダンストレーニングを行う。
- R-PDCA サイクルに基く課題と成果をもとに、児童、教職員、家庭、地域、学校三師が一体で学校保健委員会を運営する。

- 「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会や年間を通じた異学年交流を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。
- 学年に応じた地域の方々や企業と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考える場を設定する。

安全管理 安全指導

業務改善

- 学校・地域コーディネーターと協働し、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へとつなげる。
- 各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、令和2年度の学校運営協議会設置に向けた準備を行う。
- Y-P(子どもの社会的スキル横浜プログラム)を道徳や各教科の授業で行い、年間を通じて継続した実践をする。
- 携帯電話やスマホの利用、犯罪や問題行動について、学校、関係機関、家庭と連携した授業を行う。
- 児童の情報を全職員で共有し、いじめの早期発見と早期対応・家庭や関係機関との連携を確実に行う。
- いじめの起きにくい風土の醸成に努め、児童と教職員が挨拶や気持ちのよい言葉遣いに取り組む。
- 人権の立場に常に立ち、いじめ、偏見、差別をなくすための授業を行う。
- 特別支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し、職員会議で教職員の共通理解を図る。
- 適切な支援・指導の必要に応じ、関係機関との連携を図る。
- 校内研修で、教職員の特別支援教育への理解を深める。
- 学習に遅れがある児童に対し、特別支援学級によるきめ細やかな指導を行う。

- メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に年7回の活動をし、5年以下の教職員とミドルリーダーの育成を図る。
- 学校運営会議を月1回開催し、学校運営を組織的に行う。
- グループウェア等を活用し、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。

人材育成
組織運営
働き方改革

連地携域

指児童導

いじめへの対応

特別支援教育